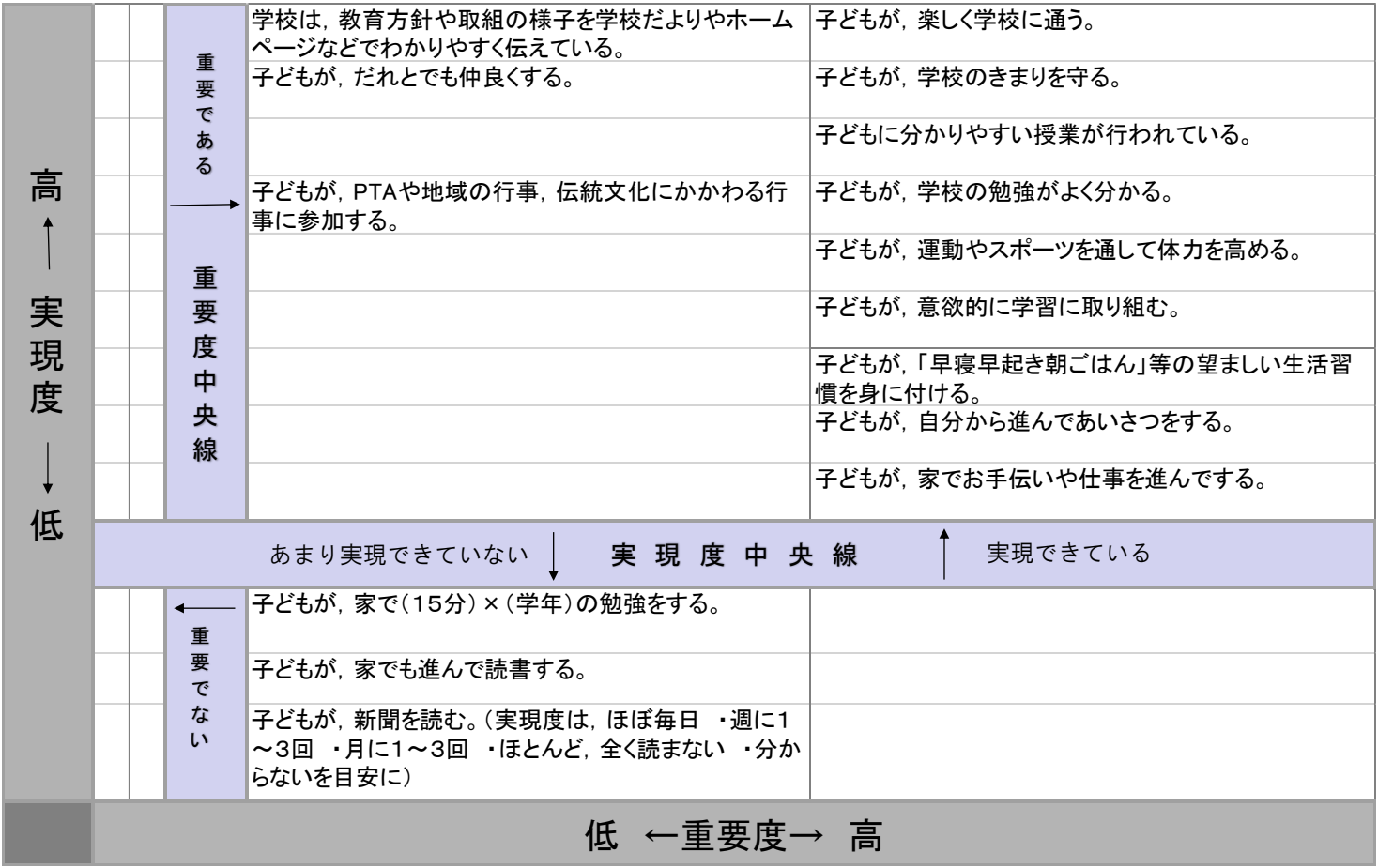


令和元年（平成31年）度後期
学校評価アンケートの結果より

春の訪れを感じる頃、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「後期学校評価アンケート」の結果についてお知らせいたします。



【保護者重要度と実現度の分布結果について】

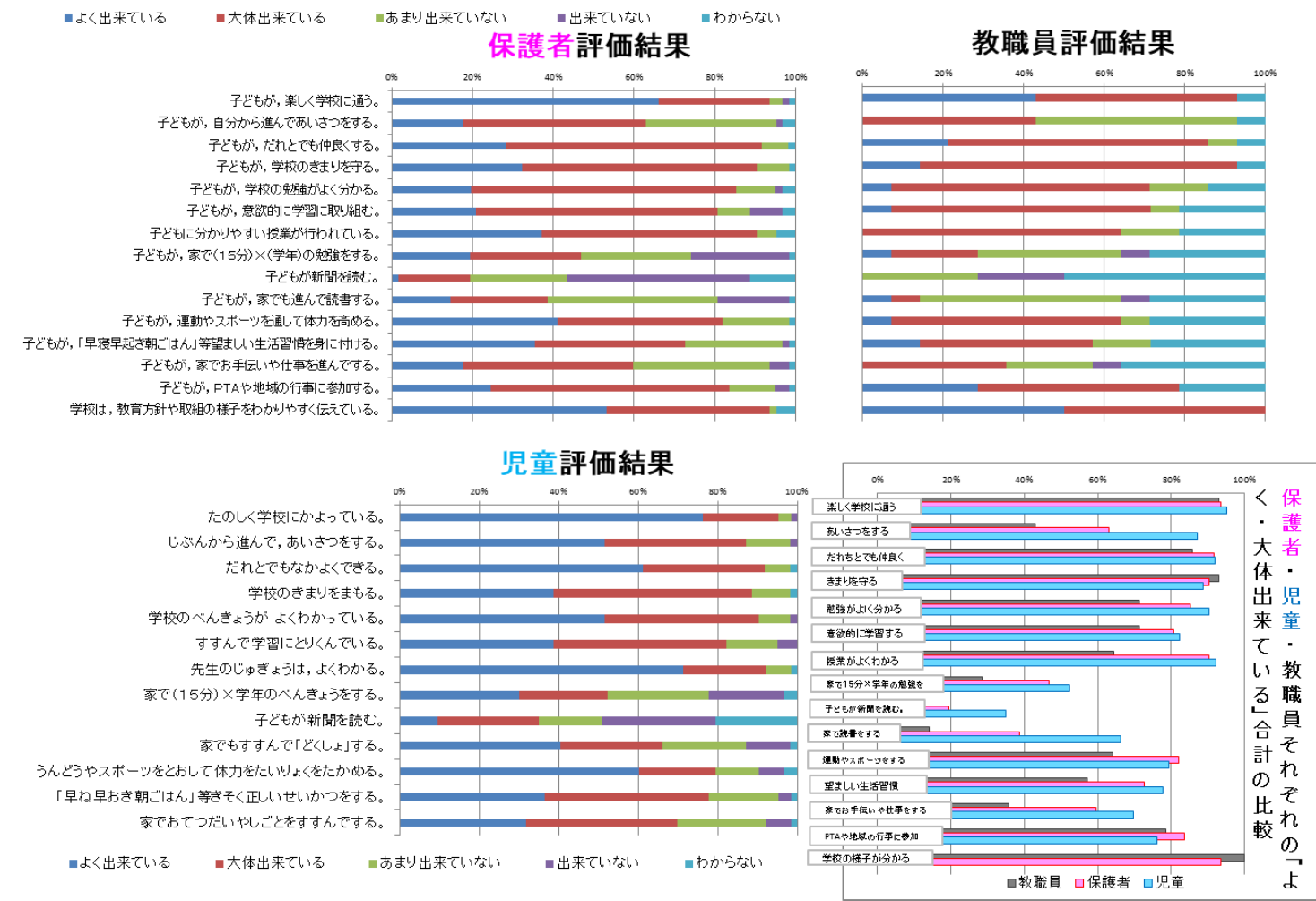
毎回の調査でも「重要度」については、すべて中央より右側に集まり、どの項目についても、保護者は「重要である」と考えています。また、どれくらい実現されているかを示す「実現度」では、3つの項目についてやや重要であるがあまり実現できていないものがありました。最も重要でしかも実現できている（右上）に9項目、やや重要で実現できている項目に3項目が入るという結果となりました。

今回の結果からも八瀬小学校の子どもたちは、毎日楽しく学校に通い、学校の決まりが守れ、友達と仲良く過ごせていると保護者に感じてもらえているようです。また子どもたちが運動やスポーツを通して体力を高めたり、学校での授業が分かりやすく、学校の勉強を分かっているとも感じてもらえたりしています。

一方、重要であるが、あまり実現できていない項目が3項目ありました。それは、家庭学習に関わる「家で15分×学年の勉強をする」と、「家でも進んで読書をする」、「新聞を読む」の3項目です。今年度から「新聞を読む」という項目を入れていますが、前期に比べてやや実現度が上がってきました。学年によって多少違ってきま

すが、高学年ではいろいろな情報を得たり、また学習に活用したりするために必要になっています。「家で進んで読書をする」については新聞以上に重要だと思っているが、前期よりも重要度が下がり、現実度も40％に届かず、読書が進んでいないようです。「家で（15分）×（学年）の勉強をする」については、重要だけれどもまだまだ50％を下回る実現度です。「宿題ができたならそれで勉強は終わり」といった考えがまだあるのか、家庭学習が定着していません。今後ますます、家庭での学習が重要になってきます。家に帰ってから自分で勉強や読書をする習慣をつけたり、どのような時間の使い方をしたらよいかを考えたりすることを家庭にも協力いただく必要があります。

令和元年（平成31年）度 後期学校評価（実現度）結果



【項目ごとの実現度の結果について】

今年度からアンケート項目は、例年の14項目（児童は13項目）に「新聞を読む」という項目を付け加えたので、15項目（児童は14項目）で実施しました。保護者、教職員、児童それぞれの結果を上にししました。また、それぞれの「よく出来ている」と「大体出来ている」という肯定的な回答を合わせたパーセントをそれぞれに色を変えて重ね、比較しました。よく出来ていること、逆にあまり出来ていないことの感じ方の度合いについては多少違いますが、毎回よく似た傾向が見られます。

今回の結果からも、「楽しく学校に通う」「だれとでも仲良くする」「決まりを守る」「授業がよくわかり、勉強もわかる」「運動やスポーツで体力を高める」の項目の評価が高く、とても楽しく充実した学校生活を送ってい

ると、八瀬小学校の子どもたち自身が思っていて、保護者もそう感じています。教職員も同じように感じている、八瀬小学校の大変すばらしいところです。また、「PTA や地域の行事に参加する」という項目については、後期は行事が少なかったこともありやや下がってはいますが、３者の評価は高く、保護者や地域の皆さんのつながりが密で、子どもたちを中心にした活動をされている八瀬の素晴らしい地域性が現れています。

一方で評価が低い「家でも進んで読書する」（保護者３８．７％、児童６６．１％）、「家で１５分×学年の勉強をする」（保護者４６．８％、児童５２．４％）、「新聞を読む」（保護者１９．３％、児童３４．９％）という３項目についてです。学校では意欲的に学習してよく分かっているように思っているけれど、家では宿題を済ませたらそれで終わりになっていて、１５分×学年の時間の勉強はできていないことが多いようです。中には放課後まなび教室や２階の情報コーナーで宿題を済ませてしまっ、家では全く勉強をしないという児童もいるように聞いています。お家の方も「宿題ができたならそれで良し」と思っておられる場合も多いようです。毎日の学習で分かったことを家でまとめたり、分からないことを調べたり復習したり、宿題だけでなく自学自習に取り組んで家庭学習を習慣化していくことが今後ますます重要になってきます。

今回、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために学校が臨時休業になり、学校からも１日の最低限の課題を各担任から提示させていただきました。きっと子どもたちは渡された課題については、真面目にこつこつ取り組んでいることと思います。どれくらいの時間をかけて取り組んでいるか分かりませんが、課題ができた後はどうしているのでしょうか？担任から学年に応じて自学自習のヒントになるような学習例を紹介したプリントを渡していますが、参考にして取り組んでいますか？家庭訪問で配った文科省からの「各教科等の家庭学習の工夫及び教材例」をもとに取り組んでいるのでしょうか？自分で計画を立てて勉強をすること、自分で学習を進めていく力がこれからの子どもたちには大変大事になっていきます。読書も、漫画は読書には入りません。良書を選んで読む、自分の知りたいことを調べるために読む、情報を取得するために新聞も読んでみることに取り組んでみましょう。

このことを踏まえて学校では、子どもたちの学力向上に向けてさらに授業を改善・工夫していきます。宿題の出し方も工夫したり、学年に応じた自学自習の学習例を紹介したりしていきたいと思います。しかし、家庭での学習や読書については、家庭（保護者）の協力が不可欠です。「子どもは家でも勉強するものだ」と認識していただき、学校と家庭とで連携しながら取り組んでいきたいと思います。

保護者の重要度が高いにもかかわらず実現度が低く、児童と評価に差が見られたものに、「家でお手伝いや仕事を進んでする」、「自分から進んであいさつをする」という項目がありました。「家でお手伝いや仕事を進んでする」について前期は約２０％の差がありましたが、１０％の差に縮まってきました。「あいさつ」についても保護者・教職員ともに低い評価ではありますが、少し改善されてきています。低学年の元気な声であいさつにつられて、高学年も小さな声から少し聞こえる声になったり、うつむいていたのが少し顔を上げて目が合うようになったりしています。でもまだまだ、お互いに顔を見合い、笑顔で心かようさわやかなあいさつにはなっていないので、これからも気持ちの良いあいさつを心がけたいです。登下校で地域の方々声が声をかけてくださることも多いので、地域の中でいつ誰に会っても元気に明るくあいさつができる八瀬の子にしていきたいと思います。

「家でお手伝いや仕事を進んでする」については、できていると答えている児童は６９．８％で保護者は５９．６％です。前回２０％の差があったので、これも差が縮まってきました。とは言うものの、保護者の重要度は高いので、全体的にはもっと積極的にできるようになってほしいと思います。子どもたちにも家族の一員として家の仕事やお手伝いの分担・方法を具体的に決めてやりきらせるようにしていくといいかもしれません。保護者がどんな姿を望んでいるのか、具体的に何ができるようになってほしいのかということを整理し、実際に今子どもたちにできることやこれから少しずつできるようになっていってほしいことなどを決めてやらせていく。少しでもできたらほめて認めていくと、子どもたちも役に立っているという達成感や充実感がもてて、続けて頑張っ

いくのではないのでしょうか。

【学校運営協議会の皆さんから】

- ・低学年の子どもたちは元気にあいさつしてくれている。高学年はどうしても照れがあつてなかなか大きな声であいさつできないが、それでもその子なりのあいさつがかえってきているので、大人の方から親しみをもって声をかけていくようにしていきたい。
- ・学習については、学校だけではなく家でも自主的にすることがこれからますます重要になってくる。学校で家庭学習のヒントは出してもらうこともお願いしたいが、家庭でも子どもたちの学習を見守るようにしていかなければならないと思う。
- ・子どもたち一人一人の良さやその子の持っている得意なこと、能力を伸ばしていくような、その子に応じた学習や個別の指導なども今後工夫していってもらいたい。八瀬小学校で進めているプログラミング教育を生かしていってもらいたい。